



地域の特性を生かした 授業づくり

(郷土民謡エイサーへの取組み)

鹿児島県立沖永良部高等学校

1 はじめに

沖永良部高等学校は、鹿児島市の南西約500km洋上の人口約15000人の沖永良部島にあり、普通科9学級、商業科6学級、生徒数530名の学校である。沖永良部島は生活文化は琉球圏に入り、生徒たちは幼い頃から琉球舞踊や三味線に慣れ親しんでいる。こうした中で沖縄の伝統芸能である「エイサー」が、郷土民謡として受け入れられてきた。島内には数多くの活動団体があり、敬老会等の祝い事や町の芸能大会、町のイベントなど、いたるところで琉球舞踊や三味線同様、エイサーが踊られている。

そもそも沖永良部島では、先祖の霊が神になって天に昇るめでたい儀式として33年忌まつりという風習があり、そこで踊られているミンブチの節や囃子が沖縄のエイサーと同じであるという。さらに、民謡の宝庫奄美に属しながらも、沖永良部島の民謡は琉球民謡により近いということである。このような土地柄であったため、新しく流入してきたエイサーも郷土の民謡として受け入れられてきたのではないかと考えられる。

沖永良部島のエイサーは、沖縄のエイサーと編成が少し異なり、太鼓踊りのみの編成となっている。

このような郷土民謡エイサーを教材として、ダンスの授業に取り入れた実践について報告する。

2 教材として取り上げたねらい

エイサーを教材として取り上げたねらいは次のようなものであった。

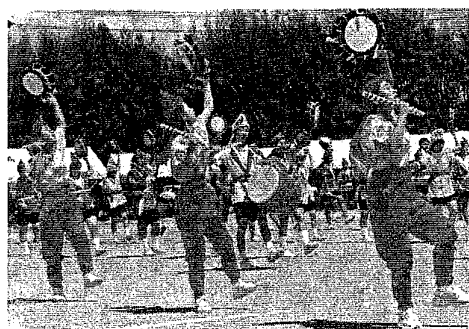
- (1) 身近な素材であるため、生徒の自発的・自主的な取組みを促し、意欲的学習を成立させうる。満足感や成就感が体感でき、このことが学校の活性化を図る一助にもなる。
- (2) 男女の特性を生かすことができ、協力・協働の態度を養い、個人の役割と責任を自覚させることができる。
- (3) 運動量も適度で、リズムや動きを創作しさらに発展させることができ、同時にダンスのもつ特性にも十分触れさせることができる。

- (4) 地域民謡の内容と太鼓を使った創作ダンスの内容を兼ね備えていることから、生徒自身が課題を見出し、解決する態度を養うことができる。
- (5) 地域の特性を生かし、伝統文化に触れることから郷土の良さを認め合いながら仲間と交流して踊ったり、発表し合ったりする喜びを味わわせ、生涯を通してダンスに親しむ心を育てることができる。

3 実践例

- (1) 1年次は「エイサーに親しむ」を目標に、文化的背景を理解し郷土民謡としてのエイサーを身に付けてみんなで楽しく踊ることができるようにしていく。

2年次は「エイサーを楽しむ」を目標に、1年次の経験を基にオリジナルの創作エイサーをつくるなど内容を膨らませていく。その際、エイサークラブや地域活動でエイサーをより多く経験しているもの（リーダー）を有効に活用し、グループ活動を活性化させる。



エイサーを踊る生徒たち

- (2) エイサー選択者数

	普通科			商業科			計
	男	女	計	男	女	計	
1年生	20	42	62	20	19	39	101
2年生	27	61	88	23	31	54	142

- (3) 指導計画（普通科25時間 3～4曲，商業科17時間 2～3曲）

時数		学 習 内 容	教 師 の 関 わ り 方		
普	商				
1	1	1 オリエンテーション	・ 文化的背景を理解させる。		
2	2	2 VTR鑑賞	・ エイサーのいくつかの型を紹介する。		
3 4 5	3 3 5	3 基本動作 ・ パチさばき ・ リズム打ち	・ 元気のある大きな動作をするよう指導する。 ・ 太鼓をしっかりとたたくようにする。		
6 7 20	6 6 12	4 曲に合わせて踊る。 ・ えらぶユリの花 ・ 仲順踊り ・ かたみ節 ・ 唐船ドイ	1 年 生 ・ 教師の動きを模倣する。	2 年 生 ・ 1年次の復習 ・ リーダーの動きを模倣する。(グループ活動)	・ 囃子をいれるタイミングを覚えさせる。 ・ 仲間とともにエイサーを楽しませる。 ・ 「えらぶユリの花」の踊りから練習させる。
		5 囃子を入れて踊る。	・ グループ活動	・ グループ活動 ・ 創作エイサー	・ 生徒の輪に入り、アドバイスする。

21	13	6	グループ発表をする。	・ 自己評価や相互評価をさせ、次時への学習意欲を喚起させる。
22 24	14 16	7	全体練習 ・ 曲に合わせて反復練習をする。 ・ 体育祭に向けての隊形づくり	・ 集団美としてのエイサーを意識させる。
25	17	8	まとめ	・ 成果を生かせるように指導する。

4 生徒の感想

とても楽しかったです。普段めったに習うことがないので、学校の授業で出来て良かったです。お祝のときなども、頼まれて踊ったりして、大活躍することができました。まさに一石二鳥ってところかな？友達から教えてもらったり、教えたり、体育祭とかは、みんなで一つの事をやりとげたって感じで感動でした。エイサー・サイコウ！
(2年普通科女子)

5 指導者の感想

- (1) 太鼓をたたくエイサーはかっこよく、やってみたいというあこがれが前面に出て、人前に出る羞恥心や、消極的な姿勢は影を潜めた。生徒達はむしろ力強く堂々としており、自信に満ち溢れている。沖永良部の子ども達の潜在的な力を引き出しているように思う。
- (2) 地域社会において、指導者自身が豊かな体験をもつことができた。
- (3) 地域と学校との「関係性の回復」が図られ、パートナーシップができてきた。
- (4) 学校社会に根強く存在する「経験・慣行どおり」・「指示待ち・先進校模倣・指導書頼り」の体質から抜け出し、創造的にダイナミックな展開ができた。

6 おわりに

沖永良部高等学校がダンスの授業にエイサーを取り入れてから8年が経過し、学校の新しい伝統としてエイサーが定着してきているとのことだった。また、今では沖永良部高等学校のエイサーは海のカーニバル、ユリ祭り、港祭り、敬老会、地域子供会など年間20の地域イベントになくはない存在になっていて、地域の活性化に大いに貢献し、学校と地域の結びつきがより一層深まっている様子も知ることができた。沖永良部高等学校の「地域の特性を生かした授業づくり」のさらなる発展に期待している。

(第二研修室 室長 吉永 早苗男)